

秋田大学広報誌〈アプリーレ〉 Aprire

No. 66
2020



〈特集〉 秋田大学創立70周年

秋田大学手形キャンパスでイルミネーションとプロジェクションマッピングのコラボレーションを実施しています。
「なまはげ～いろんな角度から知って感じて～」

令和2年2月13日まで学生自主プロジェクトチームにより、毎週木曜日に3回の投影を行います。

①17:45～ ②18:00～ ③18:15～

冬の夜をより華やかに明るく照らすイルミネーションとプロジェクションマッピングの光の共演をぜひお楽しみください。

●イルミネーションは令和2年2月25日まで毎日16:00～21:00点灯しています。



秋田大学創立70周年

秋田大学は創立70周年という節目を令和元年に迎えました。
これを契機として、さらなるステイタスアップを目指す改革元年と位置付け、
様々な記念行事を開催してまいりました。
ステイタスアップに裏付けられた、より魅力ある大学へと変貌し、地域社会への貢献を目指します。

秋田大学は、①国際的な水準の教育・研究の遂行、②地域の振興と地球規模の課題解決への寄与、③国内外で活躍する有為な人材の育成、という3つの基本理念を掲げており、昭和24年、新制大学として学芸学部と鉱山学部として2学部で発足しました。その後、秋田大学としての個性や特色に即した学部の新設や組織再編等により、現在では4つの学部と大学院研究科のほか、附属病院、多くのセンター等を備える総合大学として、「優秀な卒業生を社会へ輩出し、そして優れた研究を社会へ還元する」ため成長し続けております。

世界は刻々と変化しており、想像を絶するスピードで進化しております。このような新しい社会へ十分に順応できる人材を輩出することが喫緊の課題と考え、各学部において、この先10年の未来を見据えた学部改革を開始いたしました。不確実な未来に

向け、自信を持って羽ばたいていける学生の教育が最も求められているものと認識していることから、「学生第二」をスローガンに掲げ、全ての教職員が学生さんにきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育んでいけるよう努力しているところであります。

特に、近未来に確立される「Society」の実現に向けた大学への期待に応え、新たな社会を創造し、その実現に貢献するための教育研究体制の改革も行っているところであります。学部ごとの軽重は考慮するものの、全学生へのデータサイエンス教育を徹底してまいります。また、人や物、情報などが瞬時に行き交う大競争の世界にあつては、国境などという「壁」はありません。グローバル化推進のための英語教育、そして、文理を問わずない教養教育も大切です。知識人としての基礎である、道徳・倫理教育、リベラルアーツ教育の推進も重要と考えて

おります。

このような全学的な方針に加え、国際資源学部においては、世界で資源開発に携わるグローバル人材の養成を継続し、資源学のリーダーとなる人材の育成を、日本の若者に施し、資源学における、より大きな世界のハブ大学を目標に成長してまいります。

教育文化学部においては、教員養成教育のさらなるブラインド化を図るとともに、グローバルな視野を持つて地域の発展に貢献できる人材の育成を目指し、さらに、秋田県が必要とする人材育成の中心的組織への変貌を目指します。

医学部・附属病院においては、秋田県内の医師定着を最重要課題として取り上げ、この解決を最優先に取り組みます。そのため、基礎医学講座は、最先端の研究、臨床医学講座においては、県内のリーダー的存在として認知してもらえよう、学生たちに魅力的な医学部として、きめ細かい気持ちのこもった魅力ある教育を推進し、世界的水準を持った医師の育成をこれまで通り進めます。

理工学部においては、学部学生の大学院への進学を推進するとともに、特色ある理工学部の確立を心掛けます。特に、他大学と差別化できる領域を確立し、着実かつ先進的な研究を行い、世界に誇れることができると同時に、認められる看板の創出に尽力いたします。

さらに、地域活性化など社会に貢献する教育研究活動にも力を注いでいきます。「地方創生センター」においては、地域の方々とともに秋田の良さを再認識し、秋田大学の知

を還元し続けていくほか、秋田県の重要施策にリンクした研究事業を展開し、産業の創出や振興、活性化などへの貢献を目指してまいります。また、秋田県の重要課題である少子高齢化や地域医療体制の問題は、わが国の未来の縮図であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。そこで、高齢者医療に特化した研究拠点として設置した「高齢者医療先端研究センター」では、高齢者医療の先端的な研究のほか、地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しております。このように、秋田大学はオール秋田の中心としての役割を果たすべく、引き続き活動していきたくと考えております。さらに、介護機器や医療機器の開発等に向け、医理工連携の取り組みをより効果的かつ力強く推進しているところであります。

秋田大学長 山本文雄

将来構想・展望について



秋田大学は、①国際的な水準の教育・研究の遂行、②地域の振興と地球規模の課題解決への寄与、③国内外で活躍する有為な人材の育成、という3つの基本理念を掲げており、昭和24年、新制大学として学芸学部と鉱山学部として2学部で発足しました。その後、秋田大学としての個性や特色に即した学部の新設や組織再編等により、現在では4つの学部と大学院研究科のほか、附属病院、多くのセンター等を備える総合大学として、「優秀な卒業生を社会へ輩出し、そして優れた研究を社会へ還元する」ため成長し続けております。

世界は刻々と変化しており、想像を絶するスピードで進化しております。このような新しい社会へ十分に順応できる人材を輩出することが喫緊の課題と考え、各学部において、この先10年の未来を見据えた学部改革を開始いたしました。不確実な未来に

特別講演会「グローバルに活躍するには」を開催

7月4日、本学60周年記念ホールで、秋田大学創立70周年記念事業の一環として特別講演会「グローバルに活躍するには」を開催しました。

当日は、本学の学生を中心として、市内の高校生等も含む約230名が来場し、本学鉱山学部現・国際資源学部)出身で現在川崎汽船株式会社執行役員の岩下方誠氏を講師に迎え、「海外留学経験とキャリアについて(グローバルに活躍するとは)」と題した特別講演が行われました。岩下氏は、在学中に1年間ドイツへ海外留学した経験やロンドンでの駐在経験を振り返りながら、現在の留学事情やキャリアへの影響、これから留学を目指す学生への提言、「グローバル」とは何

かなど、熱いエールを送りました。

岩下氏の特別講演に引き続き続いて、本学の学生3名から、海外協定校への交換留学、トビタテ!留学JAPAN、短期海外語学研修等、最近の海外留学経験の発表が行われたほか、岩下氏と学生3名によるトークセッションでは、来場者と熱心な質疑応答が行われました。また、講演会場前のピロティでは、様々な形態の海外留学について、学生10組によるパネル展示(個別相談会も行われ、多くの参加者で賑わいました。今回の特別講演会を契機として、本学の学生が海外留学を通じてグローバルに活躍できる人材として成長していくことが期待されます。



特別講演会の会場風景



開会挨拶を行う山本学長



特別講演を行う岩下氏



パネル展示の様子

創立70周年記念シンポジウムを開催

8月25日、市内ホテルを会場に、秋田大学創立70周年記念シンポジウム「秋田大学のさらなるステイタスアップを目指して」高校生を夢を育む秋田大学の未来像」を開催しました。

本シンポジウムは、本学の特に研究面における現状と将来展望に対して、今後必要とされる研究や期待される研究、また夢のような研究などについて、高校生からの意見や質問、疑問に答える形で、高校生の夢を育む本学の未来像を山本学長、各学部長が高校生の皆さんと一緒に語り合う機会にすることを狙いとしたものです。

当日は、県内の高校生や高校教員、本学の学生・教職員を中心に約290名が来場し、第一部では、基調講演として、東京大学定量子生命科学研究所の豊島近教授を講師に迎え、「タンパク質研究が教えてくれたこと」と題し、自身が進めてこられた細胞膜の「カルシウムポンプ」と呼ばれる蛋白質の構造解析をはじめとする研究について分かりやすく解説が行われ、これまでの研究活動の経験を踏まえ、世界や人類に貢献できることを是非考えて欲しいことや、自分と向き合っていて、何が自分に出来るか真剣に考えて欲しいことなど、地元高校生や大学

生への期待が述べられました。

第二部として、山本学長、講師の豊島教授、各学部長及び県内高校生5名のパネラーによる「高校生と語る 秋田大学の未来像」と題したパネルディスカッションが行われ、それぞれのテーマ①高校生にとって魅力ある研究とは、②最新技術について知りたいこと、③秋田大学に期待すること)に沿った幅広い研究分野についての質問などがあり、各学部長からは、質問に対する本学の研究の状況や将来に向けた対応の可能性などについて意見が述べられました。

最後に、山本学長からは、高校生がしっかりと考

えた意見等を今後の大学運営に生かしていきたい旨の感想が述べられ、盛会のうちに終了しました。今回のシンポジウムをきっかけとして、研究に興味を抱いた高校生が研究者として成長し、本学の未来像を創り上げていく、そしてステイタスアップを目指す原動力の一翼を担うことが期待されます。



パネラー質問に対して研究内容を説明する山本学長始め大学側パネラー



基調講演を行う東京大学 豊島教授



開会挨拶を行う山本学長



質問をする高校生

創立70周年記念学生プロジェクト発表を開催

9月28日、秋田市のカレッジプラザを会場に、秋田大学創立70周年記念事業「学生プロジェクト発表」未来を担う秋田大学生たち」を開催しました。

本事業は、地域社会や高校生たちに向けて大学の学生プロジェクトの取り組みや成果について公開発表を行うとともに、大学が教育を通して地域産業の成長や医療・福祉体制充実のために地域に果たす役割、そして進むべき方向について意見交換を行うことを目的としたものです。

第1部では、教育学部、医学部、理工学部を代表する全6チームが、日頃、授業や課外活動で取り組んでいる地域や産業界と連携したプロジェクトの成果について発表を行いました。このうち、地元の印刷会社で実習を行った教育文化学部のチームからは、地域の資源を冊子で紹介する取り組みについて発表があり、冊子の制作を通して地域活性化のために印刷・広告業は何かができるか、地域の活性化の方法を考察することなどについて説明がありました。

また、第2部では、学生プロジェクトへの協力企業・団体関係者と学生代表のほか、探究授業やボランティア活動等で地域に接している高校生が一同に会し、未来を担って

いく本学の学生たちが地域の発展にどのように貢献しているのかなどについて、さまざまな視点を踏まえたパネルディスカッションが繰り広げられました。

当日は、県内の高校生や高校教員、地域の企業関係者ら160名が来場し、地域課題の解決に向けた学生の取り組みに熱心に耳を傾けていました。聴講した高校生からは、「自分が看護師になることへの目的や役割について考える大事なきっかけ

となった」「大学の魅力的な活動を知ることができて、さらに進学への思いが深まった」などの感想が寄せられました。



第1部のプロジェクト発表の様子



開会挨拶を行う山本学長



第2部のパネルディスカッションの様子

国際交流イベント「留学生による世界各国の紹介」を開催



パネル展示及び留学生との交流の様子

10月19日、本学60周年記念ホール前ロビーで、国際交流イベント「留学生による世界各国の紹介」を開催しました。

このイベントでは、本学が協定を結んでいる大学間協定校のうち、14の大学から18人の留学生が参加し、留学生の出身大学や国についてポスターを用いて紹介してもらい、併せて海外留学経験のある本学学生からも同様に海外留学の経験談を紹介してもらいました。

当日は秋田大学祭の初日と同時開催となり、小学生から一般の方まで約150人が来場し、留学生との交流を通じて本学の国際交流推進活動に関心が深まったイベントとなりました。

創立70周年記念講演及び記念式典・祝賀会を開催

秋田大学は、令和元年12月8日に創立70周年記念講演会・式典・祝賀会を秋田市内のホテルで開催し、約280名のご来賓・教職員が創立70周年を祝いました。

記念講演会では、文部科学省文部科学事務次官の藤原誠氏が「国立大学の更なる飛躍に向けて」と題し講演を行い、高等教育を取り巻く現状や課題、今後の改革の方向性について述べられました。

記念講演会に引き続き行われた記念式典では、開会に先立ち医学部室内合奏団による祝奏が披露されました。

式典では、はじめに山本学長が、これまでの秋田大学の歩みを紹介するとともに、「これまでの『歴史』と『誇り』、4学部が築いてきた業績を糧に、より光輝く地(知)の拠点形成に邁進していきます」と式辞を述べました。



学生懸賞論文で最優秀賞を受賞した長谷川さん

挨拶する山本学長

来賓として出席した文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の淵上孝課長が文部科学大臣からの祝辞を代読、次に、堀井啓一秋田県副知事が祝辞を述べられました。

式典の後半では、秋田大学創立70周年記念事業として実施した秋田大学ロゴマークデザイン募集において、多数の応募の中から選考委員会が決定した新しいロゴマークが

お披露目されました。ロゴマークをデザインした国際資源学研究所博士後期課程のレザ・フィロマンシャール・ハシブアンさんと、同研究科博士前期課程のアンデリアンシャール・グルシंगाさんへ、選考委

員長の山本学長から表彰状と副賞の目録が授与されました。



医学部室内合奏団の演奏



祝賀会の観開きの様子



新ロゴマークお披露目



新ロゴマーク作成者のレザさん(左)とグルシंगाさん(右)

員長の山本学長から表彰状と副賞の目録が授与されました。

続いて、秋田大学創立70周年記念事業として実施した学生懸賞論文の表彰式が行われ、最優秀賞を受賞した医学部の長谷川苑子さん、優秀賞を受賞した教育文化学部の森井基貴さん、田口志織さんにそれぞれ表彰状と副賞の目録が授与されました。



中締め挨拶する元秋田大学長吉村昇氏

式典後には会場を移して記念祝賀会を開催しました。祝賀会では、山本学長の挨拶に続き、弘前大学の佐藤敬学長、岩手大学の岩淵明学長から祝辞をいただきました。元秋田

学生懸賞論文

2019年4月から9月までの間、「未来への提言—20年後の社会と秋田大学の将来像—」をテーマに、本学の学生を対象とした「秋田大学創立70周年記念事業学生懸賞論文」を募集いたしました。

最優秀賞

「大きな変革を遂げる新時代における秋田大学のあるべき姿」
医学部 医学科4年
長谷川苑子
○秋田県立秋田高校出身



長谷川苑子さん

●要旨

20年後の将来は、ロボットやAIの開発による効率化、それにより生まれた時間でさらなる技術の進歩やスキルの向上が可能となり、物質的により豊かな時代になると考える。科学分野は大きく発展し、その結果経済や政治面にも大きな変化を生み出す。

また、社会構成も変化し、5パターンの人材に分けられるようになる。5パターンは、①ロボットやAIの開発、整備を行う人。新しい職業に就く人。②ロボットやAI③ロボットやAIを仕事で使う人。④芸術や伝統文化などロボットが関与し

にくい分野に携わる人材である。それぞれの人材で求められる力は異なるが、ロボットやAIが台頭する社会において我々人間に共通して求められるのはよりクリエイティブであること、柔軟な発想力である。大学においては、新たに力を入れるべき分野として、ロボット・AI学や心理・コミュニケーション学、地域文化学の3つがあげられると考える。特に地域に根ざした大学像を目指す秋田大学は、コミュニケーション学と地域文化学に力を入れるべきだ。

秋田大学を構成する国際資源学部、教育文化学部、理工学部、医学部の4つの学部において、今後求められる具体的なテーマを述べた。国際資源学部は新エネルギーの開発、教育文化学部は「考える力」をもつ次世代の育成、理工学部はAIとモノを繋ぐ新しいシステムの構築、医学部は人間であるということを強みにした医療である。

秋田大学は地域に寄り添う大学として、70年という歴史をもち秋田や日本の発展とともに歩んできた。また、研究

優秀賞

「リスク社会における秋田大学の未来への提言—地域振興の課題—地球規模の課題—未来の課題—」
教育文化学部 地域文化学3年 森井基貴
○横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校出身

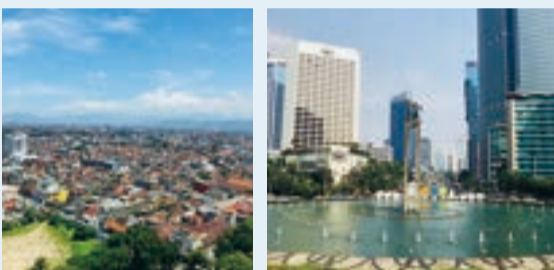
優秀賞

「これからの秋田大学を生涯学習の視点から考える」
教育文化学部 地域文化学3年 田口志織
○秋田県立大曲高校出身

○秋田県立大曲高校出身

●受賞論文はホームページに掲載しております。 https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/70th_ronbun.html

留学体験・制度



私は2018年1月から12月まで約1年間インドネシアに留学しました。留学内容は主にバンドン工科大学への交換留学とプルタミナ地熱エネルギーという会社でのインターンシップです。「インドネシアの地熱エネルギーについて」をテーマに選んで留学に挑みました。

私は留学中に起きたある出来事をきっかけにインドネシア人の優しさや人を積極的

に助けるといふ精神に触れることができました。

今回このような経験を通して、インドネシア人の困っている人を助けようとする気持ちを垣間見ることができました。あくまでも国際課の方や担当教授の方は交換留学についてサポートをするのが仕事であり、インターンシップ先を融通することは管轄外であるにも関わらずとても丁寧に対応していただきました。私が関わりをもったインドネシア人は当たり前のように困っている人の手助けをし、「悩みはないか、助けられることはないか」と気にかけてくれる人たちがばかりでした。困ったときはお互い様だとい

い、協力し合える文化が深く生活に根付いているなど感じました。私はこのようにインドネシア人の優しさに助けられたおかげで無事に留学を終えることができました。



カナダで人気のカフェ



カナダで訪れた観光地



バンクーバーの街並み

「大学生になったら絶対に留学するそんな漠然とした憧れを抱えながら入学した私は、すぐに海外短期研修という授業を発見しました。海外短期研修とは夏休みに1か月間カナダのビクトリア大学に通って英語を学ぶことをメインとした授業です。これまで一度も海外へ行ったことがなかった私は、この研修が自分の目標である交換留学への大きな一歩になると考えました。

現地ではホームステイという形で滞在し、平日はビクトリア大学で英語を学びます。クラスはレベル別となっております。世界各国から来た大学

生とともに授業を受けました。休日は自由なので、ホストファミリーと過ごしたり友達と観光したりすることができ、中でも思い出に残っていることは、現地での友達とバンクーバーに旅行したことです。公共交通機関の使い方や観光名所、道もわからないまま出発した旅でしたが、現地の人の優しさに助けられて楽しい思い出にすることができました。

「交換留学のステップにする」「ネイティブの英語を学ぶ」という二つの目標を掲げて参加したプログラムですが、この研修を通して私が得たものは予想をはるかに上回るものでした。まずは「行動力」です。これまで頭では考えていてもなかなか行動に移すことができなかった自分が、気がつくと、思いつくと同時に行動するようになっていました。また、「英語の偉大さ」も改めて実感しました。特に近年は、英語は大切であると言われることが増えて来ましたが、実際に海外へ行ってみると「英語が築き上げる人と人とのつながり」に衝撃を受けました。初日は一人で飛行機に乗っていた私が、次の日には国境を越えた友達と笑って

また、この経験を生かして今年の夏にはシンガポールで短期留学をして来ました。この短期留学を通して気づいたことは、カナダでの経験が確実に自信につながっていることです。短期留学という限られた時間の中で少しでも多くのことを経験したいという気持ちで大事にして挑戦することをためらわない自分で行けることができました。

道がわからないときは自分から一歩踏み出して人に尋ねる行動力が必要です。それと同じように目標に近づくためには自分から何か新しいことを始める勇気が求められます。それを教えてくれたのが「留学」でした。

今までに、このような留学の経験を発信する機会を何度か設けていただきました。これからも私が留学を通して学んだことを伝えながら、私にとつて大学生活の中の大きな目標である「交換留学」に挑戦していきたいと思えます。

留学体験談

トビタテ留学! JAPAN 〈インドネシア〉

国際資源学部
国際資源科資源政策コース4年次
毛内 志歩さん
〈青森県立五所川原高校出身〉

ことができました。今回はそのエピソードについて紹介します。

インドネシア留学に係る費用は「トビタテ留学 JAPAN」という奨学金を利用したのですが、その際に上記の「インドネシアの地熱エネルギーについて」というテーマで交換留学とインターンシップを掛け合わせた計画書を提出していただきました。計画書を提出した時点では日系のインドネシア支店でのインターンシップをする予定だったのですが、留学開始直後にインターンシップを受け入れるのが難しいと申し出がありました。奨学金を受給するにはインターンシップを受け入れることが必要条件であり、現地でインターンシップ先を見つけないといけない状況となりました。途方に暮れていたのですが、交換留学をしていたバンドン工科大学の国際課の方や、お世話になっていた担当教授の方に相談したところ、地熱開発を行っている会社でインターンシップを受け入れてくれる先をす



留学体験談

海外短期留学〈カナダ〉 イングリッシュマラソン〈シンガポール〉

教育文化学部
地域文化学科国際文化コース2年次
菊池 真白さん
〈秋田県立秋田高校出身〉

「交換留学のステップにする」「ネイティブの英語を学ぶ」という二つの目標を掲げて参加したプログラムですが、この研修を通して私が得たものは予想をはるかに上回るものでした。まずは「行動力」です。これまで頭では考えていてもなかなか行動に移すことができなかった自分が、気がつくと、思いつくと同時に行動するようになっていました。また、「英語の偉大さ」も改めて実感しました。特に近年は、英語は大切であると言われることが増えて来ましたが、実際に海外へ行ってみると「英語が築き上げる人と人とのつながり」に衝撃を受けました。初日は一人で飛行機に乗っていた私が、次の日には国境を越えた友達と笑って

いました。私は、異なる母語を持つ人々が英語を使うことによって通じ合い、文化を共有することに感動を覚えました。



シンガポールの夜景

STUDY ABROAD

留学体験談

トビタテ留学! JAPAN (ドイツ)

理工学部システムデザイン工学科
土木環境工学コース4年次
高橋 明日香さん
(宮城県立仙台二華高校出身)

みなさんはドイツに行ったことはありますか?ドイツといえば、ビールやソーセージ、ドイツパンなどがたくさんのおいしい食べ物がある有名ですよね。また、食べ物だけでなく、ヨーロッパらしい美しい街並みやお城といった景色も魅力的です。

そんな魅力あふれる国、ドイツでは2018年10月から約半年間の留学生生活を経験しました。私が留学していた都市は、フランクフルトから南に電車で30分ほどのところにある、ダルムシュタットという街です。大きな街ではありませんが、とても賑やかで日本とはまた違った雰囲気になっています。

私はそこで語学学校に通い、ドイツ語を勉強しながら、ドイツの公共交通機関(以下、公共交通)や街づくりを学ぶために大学の研究室に所属し、半年間を過ごしました。ドイツの公共交通は利便性が非常に高く、バスや電車は人々にとって、欠かすことのできない移動手段として重宝されています。一方で、今日の日本は地方の公共交通の衰退など、公共交通に関する様々な課題

があります。そのため、日本の公共交通の利便性をさらに上げ、地方でも公共交通が市民の移動手段として機能し、より便利な生活が送れるような街を目指したいと私は考えています。そのような街を作るために、利便性の高いドイツの公共交通と街づくりを学ぶ必要があると考えたことが、留学をしたいと考えたようになったきっかけの一つでした。

そんな思いを持ち続け、紆余曲折ありながらも、ドイツ留学を実現することができました。

渡独後は、せっかくの留学生活なので研究室で研究を行うだけでなく、実際に街や公共交通を肌で感じる事が大切だと思い、ドイツや周辺の国の様々な街を訪れました。そして、電車やバス、トラム(日本という路面電車)に乗り、その地域の独特な雰囲気や地域性などを実感してきました。特に、私が気に入ったのはドイツのハイデルベルクという古城都市で、お城から見た昔ながらの整った街並みがとても

印象的でした。様々な都市を見る中で日本の都市とも比較して考えることで、日本とヨーロッパの良さを発見するなど、今までとは違った角度から日本を捉えることができるとなりました。こういったことが出来るようになったことは、留学での成長の一つだと思います。

私は留学を通して、ドイツという非日常の特別なフィールドの中で、そこしかできない学びを経験し成長できた人として働きますが、この留学の半年間で得たことを存分に発揮し、いつか理想の街づくりを実現させたいです。



マインツにて、カーニバル(仮装したりするドイツの伝統的な祭り)



ダルムシュタットの中心部の様子

ハイデルベルク城からの景色

フランクフルトのクリスマスマーケット

シリア人の友達の家にて



語学学校の友達

秋田大学の留学制度及び留学支援について

1 派遣交換留学

秋田大学が学生交換の覚書を締結している海外の国際交流協定校(2019年12月1日現在で22か国・地域44校)に派遣交換留学をすることが出来ます。派遣交換留学では、自分の専門分野に関する正規の授業を現地学生と同様に学ぶことが出来ます。派遣交換留学のメリットとして、留学中に本学へ授業料を納め続けることにより留学料を免除すること、留学先で取得した単位を本学における単位に認定できる場合があることなどが挙げられます。

2 教養基礎教育科目「海外短期研修」

夏休み中の4週間の海外研修です。集中講義扱いの授業であり、2単位付与されます。2019年度は、カナダのピクトリア大学英語センターにて研修を行いました。本研修では、英語力を向上させるとともに、研修前後の自律的な英語学習と、英語と自らのライフプランとの関連性を認識することで、今後の大学生活と卒業後にわたるライフプランの質的向上を目指します。

3 イングリッシュ・マラソン

英語力向上のために、年間を通じて継続的に学習することを目的とした、海外への短期留学を含む特別英語プログラムです。1年間、日常的に英語に課外学習として触れる

4 高等教育グローバルセンターについて

高等教育グローバルセンターでは、各種留学相談や留学のための奨学金の情報を提供します。センターには留学経験等のある教職員もおりますので、お気軽に相談にお越しください。また、海外留学説明会を開催し、留学制度の説明や留学体験の発表などを行っているほか、留学生チューター(※)のコーディネートや留学生や地域との交流事業を行い、国際交流の場を提供しています。

高等教育グローバルセンター国際交流部門(国際課)は一般教育1号館2階にあります。ここには、外国人留学生や日本人学生が自由に利用可能な交流スペースである「多文化交流ラウンジ」(利用可能時間・平日8時~17時)もあります。ぜひ積極的にご利用ください。

(※)留学生の学習や生活サポートをする学生



国際資源学部4年 佐藤麻由 (留学先:マレーシア)



教育文化学部3年 木内友麻 (留学先:カナダ)



教育文化学部4年 澁川早紀 (留学先:イタリア)



教育文化学部4年 佐藤彩佳 (留学先:アメリカ合衆国)

病院長メッセージ

秋田大学医学部附属病院 南谷佳弘 病院長



ダビンチでの手術風景

秋田大学医学部は医師不足を憂いた秋田県民の強い思いにより1970年に第二次世界大戦後初の医学部として創設されました。秋田大学医学部附属病院(以下、秋田大学病院)はどんな病院かを以下に簡単に紹介いたします。秋田大学病院は特定機能病院・都道府県がん診療拠点病院として秋田県で唯一指定されており、文字通り秋田県の医療の中心としての役割を担っています。そして全国の大学病院や国立がんセンター・国立循環器病センターなどと比較して遜色ない高度な医療を行っています。例えば市中病院(※)では実施が難しいロボット手術や移植医療なども積極的にを行っています。一方、秋田大学病院は教育機関でもあり、皆さんがもし秋田大学医学部に入学すると、秋田大学病院で先輩医師や指導医の下で、入院中あるいは通院中の患者さんの診療を行いながら学びます(診療参加型臨床実習)。さらに卒業後2年間の義務である初期臨床研修や各領域の専門医になるための後期研修が行われています。秋田大学病院には東北最大級のシミュレーション教育センターがあります。臨床実習や臨床研修で実際の患者さんの診察や手術を行う前に、シミュレーションで十分な練習を行うことで安心して検査や手術などを行うことができます。例えば、患者さんが急変した時に慌てないで適切な対応ができるようになるための模擬訓練を行うことができます。ロボット手術の練習を行う装置も配備されています。医学生や研修医は積極的に活用してから実際の患者さんに臨んでいます。これらのシミュレーションは高校生の皆さんにも開放される場合がありますので、興味がある場合は高校の先生などを通じてシミュレーション教育センターまでお問合せください。大学病院は市中病院と大

きく異なり、研究機関でもあります。世界レベルの研究を果を世界に発信しています。個々の内容に関しては、医学部のホームページやアプリのバックナンバーなどをご覧ください。

秋田大学病院は、秋田県民が首都圏や大都市圏の住民と比較して、あらゆる意味で遜色ない医療を受けられるよう、日々診療・教育・研究に全力で取り組んでいます。命に地域格差があつてはいけません。そのためには、秋田大学病院はこれからも将来にわたつて主力で診療・教育・研究に取り組んでいきます。我こそはと思う高校生の皆さんは、ぜひ秋田大学に入学して秋田大学病院で学び、将来の秋田県の医療を担う人材になつてください。

(※)：大学病院以外の病院



シミュレーション教育センターで実習の様子

医師を目指している高校生へ

特許庁長官賞

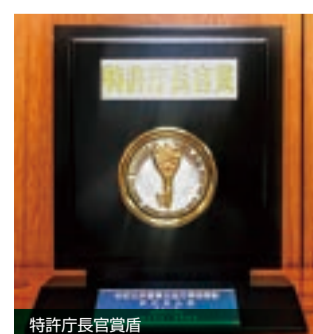
このたび、公益社団法人発明協会の令和元年度東北地方発明表彰特許庁長官賞を受賞しました。この賞は10年に始まったもので、全国を8地方に分けて、優れた発明などを生み出した技術者や研究開発者を顕彰するものです。本学からは、小川純一前教授(現北秋田市市民病院医師)、加賀谷昌美(出願時大学院生)、戸田洋医師(出願時大学院生)、そして秋田県から赤上陽一秋田県産業技術センター所長の5名が受賞しました。また山本文雄学長が本発明の実施功績賞を受賞しました。受賞した発明は「手術中病理診断向け迅速免疫組織染色法(特許第5629850号)」です。

リン・エオジン染色法を用いています。そのため、時に小さな癌の転移が見逃されることもあります。また一部の癌で一度目の手術で癌の一部を切り取って癌か否かの検査をして、確認の後に2度目の手術で切除するのが今でも一般的です。私たちは秋田県産業技術センターとの共同研究により、従来2時間以上要していた免疫組織染色法を、電界攪拌技術と新しい攪拌法を用いることにより20分以内で診断結果を得る技術を開発しました。この方法により、小さな癌の転移を見逃すことがなくなり、そして2度必要だった手術が1度で済むようになりました。



特許庁長官賞の賞状を受け取る南谷病院長(右)

この技術は秋田エプソン株式会社で装置化され、2014年に発売されるに至っております。この装置開発は国から約4億5000万円の資金を得て進めました。現在は装置の自動化や癌の治療薬を決定する遺伝子発現の解析方法など、さらに医療に役



特許庁長官賞盾

立つ応用研究へと進んでいます。

秋田大学病院は、秋田県民が首都圏や大都市圏の住民と比較して、あらゆる意味で遜色ない医療を受けられるよう、日々診療・教育・研究に全力で取り組んでいます。命に地域格差があつてはいけません。そのためには、秋田大学病院はこれからも将来にわたつて主力で診療・教育・研究に取り組んでいきます。我こそはと思う高校生の皆さんは、ぜひ秋田大学に入学して秋田大学病院で学び、将来の秋田県の医療を担う人材になつてください。

(※)：大学病院以外の病院

株式会社 松田
株式会社 湯沢生コン

地域の発展とともに
松田グループ

株式会社 丸栄建設
株式会社 出羽運輸
株式会社 エイコウ物産

【本社】湯沢市字鶴館 39-4
TEL : 0183-73-0188
URL : <http://www.matsuda-group.jp/>

先輩なう。

秋田大学卒業生の
今(=なう)をご紹介します。



PROFILE

若林 孝明さん

東日本電信電話株式会社(NTT東日本)
総合職(事務系)

◆教育文化学部 地域科学課程
(現:地域文化学科) 2010年卒業

◆出身高校 新潟県立巻高等学校

今の仕事内容、やりがいを教えてください。

私は日本の通信インフラを支える会社で、教育委員会の方や学校現場の先生方と相談しながら、タブレット端末を利用した授業の普及や学校現場の働き方改革に繋がるシステムの普及など、教育現場のICT化を推進する仕事をしています。自分が提案した“ICT”環境を授業で使う子どもたちの笑顔と、今までの学校現場になかった“ICT”が、新しい“当たり前”として日本の教育現場に浸透していくことを実感できることが、一番のやりがいです。



秋田大学での学びが、現在どのように活かされていますか。

私の仕事は“地域”や“社会”の課題に対し、“ICT”をトリガーにお客様と共に挑戦していく仕事です。“地域”の課題と向き合い、多角的に物事を分析することで課題を明確化し、解決策を導き出すことができる力には、秋田大学で学んだことが活かされていると感じています。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

“教育”を学びながら、より広い視野で“地域”の活性化や課題に向き合うことができる“教育文化学部”は、最適な選択でした。大学生活の中で“日本の教育の現場をより良くしていきたい”という思いが強くなり、今の仕事に繋がっていると感じています。

大学入学試験の対策方法(勉強方法や時間等)を教えてください。

過去の“時間”は戻ってきませんが、現在からの“時間”は自分の努力次第でより濃く深いものにすることができると感じています。それは仕事に関しても同じことが言えると日々感じています。最後まで諦めず、1分1秒を大切に過ごすことができれば、自然と結果がついてくると私は信じています。

秋田大学を希望している高校生(受験生)にメッセージをお願いします。

大学進学は人生の中でも大切な選択だと思います。秋田大学で学んだこと、経験したこと、秋田でできた人とのつながり、その全てが今の自分にとって必要なことだったと感じています。大学を卒業して来年の春で11年目を迎えますが、「出身大学は?」と聞かれ、「秋大(しゅうだい)です!」と言えることが私の誇りです。

PROFILE

今泉 ちひろさん

秋田大学医学部附属病院
血液・腎臓・リウマチ科 医師

◆医学部 医学科
2013年卒業

◆出身高校 山梨県立甲府南高校



今の仕事内容、やりがいを教えてください。

現在、医師として秋田大学医学部附属病院血液・腎臓・リウマチ科に所属しています。数ある診療科の中、一般にはあまり知られていない診療科かもしれませんが、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスといった自己免疫の病気に関心を持ち、国内留学を経て今に至ります。患者さんの多くは高齢者ですが、内科の中では比較的若い女性の患者さんも多い診療科であり、現在の治療だけでなく数十年先を見越した医療や、妊娠出産などにも寄り添える医師を目指しています。

秋田大学での学びが、現在どのように活かされていますか。

大学での6年間の学びを経て、入学当初、まったく考えていなかった(もしかしたら知りもしなかった)診療科に進みました。医学部は国家試験という大きな試練を乗り越え医師になることがひとつの目標ではありますが、試験の枠を越えた授業や実習の面白さ・楽しさが、今の進路選択やモチベーションにつながっています。卒業・国家試験を越えるためのサポートも多く受けられました。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

高校生になってから、医師を目指すようになり、縁をつないでもらいました。

大学入学試験の対策方法(勉強方法や時間等)を教えてください。

受験対策・戦略は日々変化しているものだと思いますが、国公立受験ということもあり、あまり奇抜なことはせず、日々コツコツと勉強していました。ベタですが、努力は裏切らないと信じて頑張っていたと思います。



秋田大学を希望している高校生(受験生)にメッセージをお願いします。

10年前、高校生だった同級生の多くが当時は想像もしていなかった進路に進んでいます。選択肢を広げてくれたのは高校時代からの努力や楽しみを積み重ねた結果だと思います。一つひとつ乗り越えて頑張ってください。

秋田県厚生農業協同組合連合会



丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に
一般財団法人 丁酉会

保険調剤
てい ゆ う かい
丁酉会薬局

秋田大学病院前

秋田大学生協は 秋田大学生を応援します

秋田大学生の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です!



つながる元気、ときめきキャンパス。



秋田大学生協 ☎ 0120-327-141

COLUMN

秋田魁新報社との包括連携協定記念コラム

秋田魁新報社との包括連携協定締結を記念し、秋田魁新報社で活躍している秋田大卒業生よりコラムを書いていただいております。



秋田魁新報社
経営管理本部総務局総務部
部長 安宅 英男

1990年 3月 秋田大学鉱山学部電気工学科 卒業
1990年 4月 秋田魁新報社入社
電算制作局電算制作部
2008年10月 編集局ニュースセンターメディア部次長
2014年 4月 編集局制作センター整理部部長代理
2018年 3月 総務局総務部長
秋田市出身

生かしたい若者の視点

「マサル」といえば何を思い浮かべるだろうか？ 名前を聞いただけでピンと来る人は多いのではないかと。愛くるしい表情と、くると丸まったシッポが特徴の秋田犬。大仙市で生まれ、秋田犬保存会から2018年5月、ロシアの五輪金メダリスト、アリーナ・ザギトワ選手に贈られた。

そうした話題も追い風になつているにちがいない。秋田犬は今や海外でも人気が高く、秋田の観光に欠かせない存在だ。秋田駅や秋田空港ではクッキー、おかし、チョコレートといった秋田犬関連のお土産が豊富。かわいらしいパッケージや面白いネーミングの商品もある。秋田犬発祥の地である大館市では、観光交流施設「秋田犬の里」が昨年5月にグランドオープン。国内外の観光客を集めている。昨年7月には県内事業者が、秋田犬グッズを購入できる自動販売機を羽田空港に設置した。秋田犬を活用した地域活性化の取り組みは

実にさまざまだ。

私が所属する総務部は業務の一つに接客対応があり、県外のお客さまと話す機会が多い。県外客の方は秋田の食や文化への関心が高いようで、秋田犬のほか、地酒や大曲の花火、竿燈まつり、男鹿のナマハゲなどが話題に上る。会話を通じ、秋田は多様な資源に恵まれた魅力的な地域であることをあらためて感じている。

新聞では、こうした豊かな資源を生かし活性化を図ろうというさまざまな取り組みが紹介されており、中には秋田大学の学生が関わるプロジェクトもある。昨年9月15日付秋田魁新報の県央版には「由利牛インスタでPR」という見出しで秋田大生3人の取り組みが紹介された。学生自ら畜産業者や農場取材し、秋田由利牛の魅力について写真共有アプリ「インスタグラム」を使って発信したという。

学生の中には「由利牛は地域の立派なブランドだと知ったが、PR不足も感じた」と語っている。取材を通じ、地域の現状に理解を深めたのだろう。地域活性化のため、こうした取り組みをもっと積極的に進めていくべきだ。先日、業務の一環で地域の課題解決を応援するファンドの公開審査に選考委員として参加し、各団体の事業提案を聞いた。ある団体の代表者は「長年続く地元イベントが資金難で存続できなくなる」と危機感を募らせ、外国人観光客に行事を体験してもらい、話題性と注目度を高めようという新たなプランを発表した。成功すれば地域への効果は大きいだろうと感じた。ほかにも、元気のない地域を何とかしたいという熱意が伝わる発表は多かった。人口減少と高齢化が急速に進む秋田県。地域の課題を解決するには、常識にとらわれない「若い力」が必要だ。秋田大学の後輩たちには魅力ある地域資源をどんどん発掘、発信し、秋田を盛り上げてほしい。斬新な発想と行動力があれば、秋田犬にもひけを取らない新たな資源が見つかるかもしれない。

秋田大学、ホームカミングデーを開催！

秋田大学は10月19日、本学の卒業生をお迎えして、「第5回秋田大学ホームカミングデー」を開催しました。

このイベントは秋田大学全学同窓会及び各学部同窓会の協力のもと実施され、これまで学部単位で実施されていたものを平成27年度から全学的な取り組みとして開催し、今回で5回目となります。

記念講演会では、はじめに本学の山本文雄学長が挨拶。続いて、本学全学同窓会を代表して本学全学同窓会兼教育文化学部同窓会「旭水会」の千葉昭会長から挨拶がありました。

引き続き、山本学長から本学の活動実績について報告があった後、秋田大学名誉教授の湊三郎氏から「秋田大学における教職生活から」、元秋田

大学長、秋田大学名誉教授の三浦亮氏から「秋田大学の思い出」、元秋田大学副学長、秋田大学名誉教授の牧野和孝氏から「総合資源学への憧れ」と題して講演がありました。当日は、参加者が100人を超え、会場は大変な盛況となりました。



交流会の様子

その後、会場を移動して行われた交流会では開始に先立ち、北光会会員であり、日本ラジオ歌謡研究会会長で活躍中の工藤雄一氏から「花切手」などのラジオ歌謡曲が披露され、交流会の途中では、旭水会会員で活躍しているフォーグレイスによる演奏が行われ、花を添えました。同会は山本学長をはじめ本学役員・教職員や学生も参加し、先輩である同窓生の当時の思い出話などを交えながらにぎやかな歓談、情報交換が行われました。

参加した学生からは「諸先輩方と情報交換できる貴重な時間であった」「普段接しない他の学部・研究室の学生や先生とも話ができて良かった」「学長や理事と接することができてとても有意義な時間を過ごすことができました」との声が寄せられ、盛会裏に終えました。



講演する山本学長、湊氏、三浦氏、牧野氏(左から)

ヒトには
創れないモノがあるから。

いつからだろう
四季の移ろいを あたり前のように
感じられなくなったのは
いつからだろう
自然の恵みに抗いはじめたのは
後悔しても
人には創れない
なつかしい風景のために
自然と私たちのあたり前の関係を
維持するために
さあ、いっしょに循環型社会へ

ユナイテッド計画株式会社
本社/〒018-1414 湯上市昭和豊川榎木字榎13-1
TEL:018-877-3027 FAX:018-877-3986
リサイクルワークス秋田事業所/TEL:018-864-0668 FAX:018-864-0680
リサイクルワークス湯上事業所/TEL:018-877-5770 FAX:018-877-5794

ICT、企画力を駆使して
最善なシステムを
提供いたします。

TECHNOAGE INC.

株式会社テクノエイジ
東京都港区赤坂8丁目12番20号和晃ビル2F
TEL:03-5575-0900 http://www.technoage.co.jp/

私達は、常にお客様の信頼と満足を目指し、より質の高い工事とサービスを提供します。

ISO9001:2015 認証取得

能代電設工業株式会社

http://noden.jp/
☎ 016-0801
秋田県能代市浜通町1-45
地域を支える企業を目指して
豊かな自然と、豊かな未来を。 TEL 0185-54-4249

学生広報スタッフ活動備忘録(仮)

秋田大学演劇サークル「きたのかい」取材

私たち学生広報スタッフは11月7日(木)に、今年度10月19日(土)・20日(日)に開催された秋大祭で公演した、秋田大学演劇サークル「きたのかい」の小野寺駿さん(学部2年生)に話を伺いました。



笑顔で取材を受けてくれた小野寺さん

「きたのかい」は66年の歴史を持つ演劇サークルで、部員は約40名います。下は学部1年生、上は修士課程2年生が所属しており、夏と冬の年に2回定期公演を行っています。秋大祭公演「ヒーローズ・イン・ザ・ワールド」はまさに「どんでん返し」のどんでん返しを、人を引き込む大きな力を感じました。7月に行われた夏公演「SUPER RICH MAN 灰崎」から秋大祭公演まではたった3か月。今回この3か月間でどのように準備

秋大祭実行委員取材

私たち学生広報スタッフは11月11日(月)に今年度開催された秋大祭について、秋大祭実行委員会(以下、実委)の委員長富山花さん(教育文化学部2年次)、広報担当の下田春菜さん(国際資源学部2年次)に取材しました。

今年度の秋大祭は10月19(土)・20(日)の2日間、「はるから」というテーマのもと盛大に開催されました。

2人が所属している実委は、秋大祭の企画・運営のすべてを担う組織です。実委が秋大祭の準備を本格的に始めたのは新学期に入ってからで、企業の協賛やスペシャルゲストのオファー、パンフレット制作などの準備を進めてきたとい

されたのかを中心に話してもらいました。

基本的に今回の脚本は、前の公演から考えており、今回は既存の脚本を使用し、演出はサークルのメンバーが担当したそうです。メンバーは7つの担当に分かれており、どれか1つに所属しています。担当の仕事の他に、演出や役者の仕事を担当するときもあるそうです。

3か月間の主な流れについて、「脚本・演者を1か月以内に決め、大道具・小道具は2か月前から準備しました。演出担当と相談して、「舞台図」(※)につ



いての会議や、衣装も相談して作り直しました。ぎりぎりまで作り直しました。今回印象的だった殺陣のシーンについて「演者の中に殺陣の経験がある方がいて、教えていただきました。今回は1か月もなく、殺陣も1週間以内に体で覚える必要があったので本当に時間がありませんでした。笑顔で振り返ってくれました。

ですが、今回は1本に絞ったため時間配分が大変でした。本番ぎりぎりまでの準備の中、乗り越えられたのは先輩の存在だそう。「今回演者の方たちが基本的に学部4年生や修士課程の先輩でしたので、経験談やアドバイスをいただいていた乗り越えられました。私は裏方に徹していて、今回表に立ってみたい、どちらも大変なことが分かりました。当日、雨が降っていた中、予想以上の方が観に来てくださり、とても嬉しかったです」と喜びを語ってくれました。

- 応募資格/秋田大学の学部生及び大学院生
- 応募方法/氏名・学部・学科・学年・連絡先(携帯番号・メールアドレス)を明記して下記アドレスへ。または右の応募フォームから
- 応募・問合せ先/秋田大学広報課
TEL:018-889-3019 E-mail:kouhou@jimu.akita-u.ac.jp



います。実委ならではの企画も毎年考えており、今年度は初めての試みとして、一般教育棟1号館の館内に休憩所を設けました。これは「模擬店で購入した商品を食べる場所がほしい」という来場者からの要望により、実現したものです。そのほかにもクイズ企画や謎解き要素を加えたスタンプリーは、限られた期間内での準備でしたが、開催にこぎつけることができましたと苦労を語ってくれました。

今回は広報活動にも積極的に取り組むSNSでの情報発信やメディアへの出演を積極的に行ったほ



か、毎年、実委のメンバーがデザインを考えているパンフレットとポスターは、「はるから」というテーマを連想させる「和」のイメージをふんだんに取り入れて作成。大学内外から大きな反響を得られ、デザインに感激して大学の学生支援・就職課に直接連絡を入れてくれた方もいたそう、これらの宣伝活動が秋大祭成功の要因の一つになったと感じたそうです。

迎えた秋大祭1日目は、あいにくの雨でした。現在、実委には1年生から4年生の約50名が在籍しています。ですが、雨の秋大祭を経験したことのある人がいなかったそうです。しかし、今年度は雨天に向けて万全の準備を整えていたため、

滞ることなく運営を行うことができました。1日目が雨だったこともあり、2日目は「絶対成功させる」という共通意識が強かったそうです。そんな中、今年度の秋大祭の目玉となるタレントのゴージャスのステージが行われました。これまでのスペシャルゲストの中でも、1、2番を争う集客率で、見る者を魅了してくれて、自分たちも楽しむことができたと感じています。

今年度の秋大祭を振り返って、委員長の富山さんは、準備から当日の運営を通して実委のメンバーそれぞれが秋大祭を成功させるという強い目的をもって活動できたこと、まさに実委全員で作った秋大祭だ、とまとめられました。



実行委員長の富山さん(左)と広報担当の下田さん(右)

秋大祭への参加団体や委員会に所属していない秋大生も積極的に足を運びたいと感じるような秋大祭を作っていきたいと今後の意気込みを語ってくれました。

今回の秋大祭は秋田大学創立70周年の節目にふさわしく盛大に開催できました。これからも秋田大学を象徴するイベントとして、秋大祭のさらなる発展を期待しています。

**新メンバー
続々と増えています!**

12月に新メンバーが加わり、現在、学生広報スタッフは13人で活躍しています。新メンバーが加入する際には、委嘱状交付式を行います。引き続き、新メンバー募集していますので、広報活動に興味のある方、マスコミ業界を目指している方、目標を持ちたい秋大生をお待ちしております! 部活動やサークルに所属している方も大歓迎!

『郷土を愛し、地域に尽くす』

大森グループ 大森建設株式会社

総合建設業

- 本社 能代市河戸川字北西山48-1
TEL 0185-54-3358 FAX 0185-55-1470
- 本店 山本郡八峰町八森字和田表121
TEL 0185-78-2211 FAX 0185-78-2847
- 秋田支社 秋田県秋田市中通二丁目1-36番地
TEL 018-884-1275 FAX 018-884-1276

- 三商物産株式会社
- 株式会社ダイニチ
- 株式会社八森電子デバイス
- 株式会社ノック
- 能代中央生コン株式会社
- 株式会社 親孝
- 株式会社伊藤羽州建設
- Beech株式会社
- テクノQueen株式会社
- 能代FRC有限責任事業組合
- 株式会社 福八
- サンホレスト化成工業株式会社岩手工場
- 風の松原自然エネルギー株式会社
- 白神ウインド合同会社

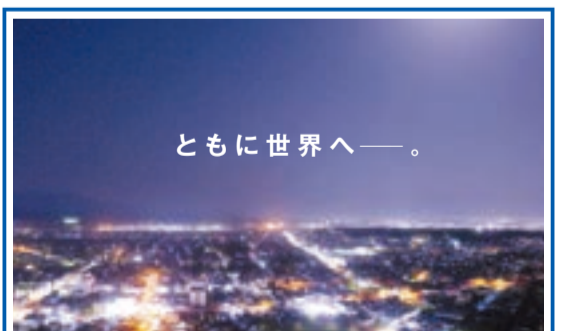


特定医療法人 敬徳会 藤原記念病院

理事長 藤原 慶正
院長 白山 公幸

〒010-0201 湯上市天王字上江川47 TEL 018-878-3131

敬徳会 出戸診療所 TEL 018-878-7710
天王訪問看護ステーション TEL 018-878-7810
まごころプランステーション TEL 018-878-6850
〒010-0201 湯上市天王字北野307-55



ともに世界へ。



Harbor business



Warehousing business



International complex transportation service

秋田海陸運送
www.kairiku.co.jp

イベント&講座・講習会

Event, Seminar, Workshops & Extension course

催し物

鉱業博物館特別展

「銀と金からみるアラビア衣装
—カラフル、リバイバル、リサイクル—

現代アラビアにおける社会的価値観、歴史的な流通、おしゃれ、おもてなしといった文化に焦点を当てた展示を行います。

- 令和2年3月開始予定
- 鉱業博物館
- どなたでも
- 参加費/100円(高校生以下無料)
- ☎018-889-2461(国際資源学研究所事務部)

秋田大学教育文化学部 天文台イベント

市民が講演する天文サイエンスカフェと、45cm反射望遠鏡と10cm屈折望遠鏡を使った夜間天文観望会。

- 令和2年2月1日(土)17:00~19:00
- 3月7日(土)17:00~19:00
- 4月4日(土)18:00~20:00
- 秋田大学教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
- どなたでも
(夜間観望会は小学生以上、小・中学生は保護者同伴)
- 参加費/無料
- ☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)
- mouri@gipc.akita-u.ac.jp

全学同窓会設立10周年記念式典・ 講演会・祝賀会

- 令和2年2月1日(土)13:30~17:00
開会セレモニー(13:30~13:50)
東京国立博物館長 銭谷真美氏の講演(14:00~15:00)
祝賀会(15:10~17:00)
- 東京ガーデンパレス ☎03-3813-6237
- お問い合わせは各同窓会事務局へ

秋田大学広報課公式
Instagram開設



<https://www.instagram.com/akitauniversity/>

受賞の喜び

令和元年度日本学生支援機構 功労者・優秀学生顕彰 「学術」部門で大賞を受賞した医学部医学科6年次・河谷 昌泰さん

「この度は過大な賞をいただき、身に余る光栄です。指導して頂いた先生方、研究室の皆様方、そして研究に首を突っ込む機会を与えてくださった秋田大学という環境に心から感謝いたします。まだ学部生ということもあり、真の研究の道にはこれから足を踏み入れようというところです。この賞を励みに今後もより一層研究に邁進していきたいと思っております」



受賞する河谷さん

秋田大学みらい創造基金 ご協力をお願い申し上げます。

「秋田大学みらい創造基金」は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

みらい創造基金による事業紹介

○学生海外派遣支援(一般基金)

本学と国際交流協定を締結している海外の大学への留学を希望する学生に対し、留学に係る渡航費の一部(アジア圏上限5万円/その他の地域上限10万円)を補助しています。今年度は、アメリカ、フィンランドなど7か国に留学する9名の学生へ支援を行う予定です。

○附属病院の備品購入(病院寄附金)

附属病院で患者さんやご家族が利用する荷物運搬カート(写真上)と車椅子(写真下)を増台しました。



○ホームカミングデーの開催(一般基金)

本学の卒業生に母校の近況をご覧いただくと共に、在学生、教職員との連携・親睦を深める機会として、「ホームカミングデー」を秋田大学祭の開催に合わせて10月19日に開催しました。卒業生の他多くの在学生・教員も参加し、交流を深めました。



※その他の事業については、秋田大学ホームページで紹介しています。

〈ご寄附のお願い〉

- 個人の方：一口 1,000円 ●法人の方：一口 10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、何卒複数口のご協力をお願いいたします。また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせください。

〈ご寄附の方法〉

- 振込によるご寄附 ●クレジットカードによるご寄附
- 古本募金によるご寄附 ●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み方法は上記の通りです。詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧ください。基金事務室までお問い合わせください。

〈古本募金のお願い〉

読み終わった書籍(CD・DVD等を含む)を本学の提携業者が買い取り、その売却代金をご寄附いただく「古本募金」をぜひご活用ください。5冊以上から送料無料でご指定の場所に集荷に伺います。ご希望の方は、下記にお電話いただくか、秋田大学ホームページからお申し込み下さい。なお、一度に集荷できる古本は3箱までとさせていただきます。

株式会社バリューブックス ☎0120-826-292

(電話受付時間 10:00~12:30、13:30~21:00 日曜は17:00まで)

※「秋田大学みらい創造基金「古本募金」の申込」とお伝えください。

〈寄附者ご芳名〉この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等

- | | | |
|----------------------------|--------------------------|------------------|
| ●秋田大学教育文化学部附属小学校教育後援会 様 | ●秋田大学教育文化学部附属特別支援学校PTA 様 | ●医療法人翔友会小山内科医院 様 |
| ●秋田大学教育文化学部附属小学校PTA 様 | ●秋田大学教育文化学部附属幼稚園教育後援会 様 | ●総合施設株式会社 様 |
| ●秋田大学教育文化学部附属中学校教育後援会 様 | ●秋田大学教育文化学部附属幼稚園PTA 様 | ●医療法人高橋整形外科 様 |
| ●秋田大学教育文化学部附属中学校PTA 様 | ●秋田大学有志一同 様 | ●株式会社フィデア総合研究所 様 |
| ●秋田大学教育文化学部附属特別支援学校教育後援会 様 | ●市川こどもクリニック 様 | |

個人

- | | | | | | | |
|----------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| ●浅田 昌弘 様 | ●石川 素子 様 | ●久保 康人 様 | ●佐藤 美起雄 様 | ●田島 音次郎 様 | ●西 健太郎 様 | ●水口 直樹 様 |
| ●阿部 英子 様 | ●市川 逸郎 様 | ●桑島 精一 様 | ●三戸 学 様 | ●常木 郁之輔 様 | ●西山 広明 様 | ●吉岡 尚文 様 |
| ●伊賀 敏朗 様 | ●伊藤 孝 様 | ●坂本 和太 様 | ●鈴木 哲哉 様 | ●鶴飼 美和子 様 | ●藤井 蘭子 様 | ●渡辺 慎太郎 様 |
| ●池上 俊哉 様 | ●神谷 彰 様 | ●佐久間 康成 様 | ●須藤 哲 様 | ●那須 和広 様 | ●堀口 誠二 様 | ●仲澤 公司 様 |

他 匿名希望 18名様・法人様(延べ数)(令和元年9月~11月末入金分 五十音順)

〈お申し込み・お問い合わせ先〉秋田大学みらい創造基金事務室 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 ☎018-889-3266(総務企画課内)
秋田大学みらい創造基金は、秋田大学公式ホームページからもお申し込みいただけます。 https://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html

